

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000041		
法人名	株式会社コウケンパートナーズ		
事業所名	グループホームアクア		
所在地	山口県光市木園町1-4-5		
自己評価作成日	令和5年1月27日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス		
所在地	広島県広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	令和5年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは街の中心地にあり、医療・買い物と利便性のよい場所にあります。さらに、自然に恵まれ、ホームの裏には島田川があり、河川では四季折々の野鳥や魚の姿を目にすることができます。また、開設当初からの職員が数多く在籍し、利用者様に質の高いサービスを提供するという目標のもと、チーム一丸となって取り組んでいます。利用者様やご家族様とも良好な信頼関係を構築しています。当施設はAED設置救急ステーションの認定を受けており、地域向けのホーム便りを作成して小中学校に掲示していただき、救急ステーションであることを広く周知し、地域への貢献を目指しています。また、認知症への理解を深めていただくため、認知症ケア専門士の資格を持つ職員も在籍しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設からの職員も多く、お互いに言いやすい関係性にてチームとして協力し合いながらケアの実践が行えている。職員は各自得意なことで役割担当も担う他、毎年理念をもとに自己目標を掲げ資質の向上に向け取り組み、利用者の日々の生活に活かせる質の高いサービス提供となるように意識を持ち努めている。自治会の活動など地域の中で暮らす社会性のある生活やコロナ禍で外出が難しい情勢下において、室内での活動を充実させる取り組みとして敬老会を運動会に変え体を動かせるようにしたり、リハビリ体操を日課として位置付けたりと楽しく過ごせるよう工夫や趣向を凝らしている。尊厳を重要とし自分らしく生活ができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕【文字サイズは10ポイントのままで変更しないでください】

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	仕事に入る前に理念を必ず確認し、ご家族様や地域向けのホーム便りにも理念を掲載している。また、自分たちが意識を持ち、年度初めには理念を再確認し、それぞれの目標を発表している。	理念に地域社会とのつながり、家庭的な生活環境、尊厳ある生活を掲げ、達成のための具体策を策定しその人らしさを発揮した生活を目指している。就業前に理念や具体策の確認を決め事とし一貫して実践している。年度初めに理念を再確認した上で職員個々に目標を作成し取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においても地域との繋がりを保ち、自治会の清掃活動に参加したり、台風で避難した時は自治会と連絡を取り合うなどしている。また、いつも声掛けをしてくださっている近所の方が、ボランティアの草刈りをしてくださるなどの交流が持てている。	自治会に加入し、清掃活動にも参加している。コロナ禍でも可能な取り組みを模索し、昨年は中学生が草刈りのボランティアに来てくれた。コロナ禍以前では社会福祉協議会や認知症を支える会が主催する中学校での徘徊に対する訓練にも参加していた。地域住民とも散歩中の挨拶など交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの様子が分かるよう、地域向けのホーム便りを作成し、地域の小学校や中学校に掲示していただいている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員ミーティングの際にサービス評価項目ガイド集に基づいて勉強会を行い、それぞれの項目について積極的に意見交換を行っている。	毎年9月、10月に評価を行うことで意識付けしている。外部評価結果も全員で振り返り、達成目標を策定している。昨年度の反省にて事故報告が多いことを焦点とし、統計をグラフ化し可視化した分析を行うことや、AEDなど救命にて基礎的な力、応用力をつけられるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため対面形式での開催は難しい状態なので書面形式での開催に切り替え、運営推進会議の参加者には毎回議題についての資料を作成し、議事録を送付している。	各関係者の意見を確認し、毎回議題をあげ職員間で話し合った資料や議事録を送付し書面にて確認する形で共有に努めている。以前では避難訓練にも地域の方の参加があり、避難経路部分にスロープがあった方がいいとの提案があった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の職員の方にも参加 して頂き、意見交換を行っている。 また困難な事例についても相談し、意見を 頂くなど協力関係を構築している。	運営推進会議での意見交換の他、市のク リーンアップ政策の清掃活動に参加してい る。市町での認知症見守りネットワークへの 協力や利用相談など行い関係性が深くある。 市のグループホーム協議会は現在コロナ禍 のため開催を見合わせているが高齢支援課 の参加もあり共同している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を施設の内外 で行い、職員全員が理解をし、身体拘束をし ないケアに取り組んでいる。 また身体拘束適正化委員会の議事録を作 成し、運営推進会議の参加者に送付してい る。	3か月毎に身体拘束適正化委員会を開催 し、日々のケアの中でスピーチロックや身体 拘束に該当するかなど委員の職員が担当と なり検討を行い認識の共有を図っている。日 中の玄関も目の前が交通の多い道路なの で、行政と確認し安全性の観点から施錠を行 うようにしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修に参加し、施 設でも勉強会を行う事によって職員間の理 解を深め、虐待の未然防止に取り組んでい る。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	成年後見制度について、定期的に勉強会を 行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書などにつ いての説明を行い、契約内容をご理解いた だいたうえで、疑問点があれば対応でき るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時にご家族様に説明を行っている。運営推進会議にも出席して頂き、意見や要望を伺い、その都度対応を行っている。面会希望のご家族様にはリモート面会で対応している。	利用料金を持参制にしており、毎月定期的に意見を聞く機会とし、利用者毎に担当をつけ担当者から家族へ連絡し意向や思いを確認している。毎年の家族会での食事会は意見交換をはじめ、利用者や家族、職員が交わり交流する機会となっている。通信アプリの活用も行っている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人員の補充の相談や業務に関する物品の購入等、職員の訴えには可能な限り迅速に対応している。	調理はシルバー人材センターを活用しており、職員をはじめ調理職員からも希望を確認し随時対応している。希望休も上限を設けず、仕事とプライベートの両立が可能となるよう配慮している。代表者も意見に耳を傾け、管理者へは日頃から意向を伝えやすいなど、関係性を構築している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に施設環境を把握し、迅速な対応をしている。また職員の健康診断を定期的に行い、職員の健康づくりにつとめている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年間の研修計画をたて、職員が希望する研修に参加できるよう取り組んでいる。参加者は研修報告を行い、情報をフィードバックしている。コロナ禍の中でも研修を受けられるよう、リモート研修にも対応している。また、ミーティング時には毎回、必要な情報や知識に対応した勉強会を行っている。	職員個々に年間研修計画を立て、研修も希望を優先し取り組むことができるようにしている。毎月ミーティング時に内部研修を実施し、外部研修においては伝達研修を行い全員で内容を共有し資質の向上に繋げている。資格取得のため勤務の調整や研修費用や交通費のサポートをしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のためグループホーム協議会は開催できないが、市内の別事業所とお互いに相談に応じるなどして、連携を取っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センターシートを利用してアセスメントを行い、本人にとってより良い支援が行えるよう努めている。			
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に先立ってご家族様の思いを受け止めて、職員の間で情報を共有し、安心して頂けるよう心掛けています。			
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の状況を把握し、問題になる事柄に優先順位をつけ、必要に応じて変更しながら、ひとつひとつ問題を解決していけるようつとめている。			
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人のできる事を活かしながら、それに対する感謝の思いを示すことによってやりがいを感じていただき、共に生活する関係を築いている。			
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様に入居者様の状態をお知らせするお便りを出している。 コロナ禍のため、タブレットを利用したりリモート通話でご家族様とお話が出来るよう支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話を所持している入居者様が自由に電話をかけられるよう対応している。また、コロナ禍のため、積極的にリモート面会を取り入れている。入居者様のお誕生日の時には電話連絡や誕生日プレゼントが送られ、継続的な関係を維持できるよう支援を行っている。また、手紙のやり取りなどの支援も行っている。	以前より近所の方や職場の友人など馴染みの方の来所が多くある。現在は面会が難しい中、窓越し面会や手紙のやり取りなど繋ぐ支援を行っている。事業所内に利用者がよく行っていた場所の風景写真を掲示し、昔を懐かしんで過ごせるようにしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソーシャルディスタンスを保ちながらホールで楽しい時間を共有したり、入居者様同士で助け合いや出来ない事へのフォローを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様と連絡を取り合って近況報告を行ったり、ボランティアに来ていただいたりした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で利用者様の様子などを連絡ノートや経過記録に記入し、全職員で共有して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は本人様の状況や表情から読み取ったり、ご家族様と相談を行ったり、職員同士の意見交換でより良いケアに繋がるよう、常に検討を行っている。	利用開始時にセンター方式にて利用者の思いや意向を確認し、これまでの暮らしの理解に努めている。日々の生活の中での係わりを大切にしている。担当者からも普段から密に係わることや家族への確認など利用者の意向の把握を行い、連絡ノートや介護記録にて職員全員で共有している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や親せきの方から話を伺ったり、利用者様の様子を観察して情報を得る事により、本人にあったサービス提供を行い、その人らしい暮らし方や力が発揮できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護記録を記入し、それを常に確認する事により、小さな変化を見逃さないよう心掛けている。勤務に入る前には必ず申し送りを行い、特変があれば詳しく説明する事で状態が把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度、ご家族様を交えた担当学会議を電話にて開催し、月一回のカンファレンスで課題やケアの方法について職員で話し合いを行っている。利用者様の状態が変化した時は見直しを行い、現状に沿った介護計画を作成している。	計画作成者は各担当者から意見を確認し、家族の意向をもとに職員全員でミーティングを行い作成している。3か月毎にモニタリングとアセスメントを実施し定期的な振り返りにて利用者の状態や状況に沿った形で計画に反映し、キーボードを弾くなど個々の特色ある計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表や介護記録を記入する事によって情報の共有化を図るとともに、問題点や気づきがあれば必ず記録を残すようにしている。個別のファイルを作成し、病歴や服薬状況などを把握してリスクのチェックを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生み出されるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で施設への立ち入りが制限されているため、ご家族様との触れ合いの機会を設けるため、タブレットを購入し、通話アプリを使用するなどして対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	台風で避難した時に自治会長に連絡を取り、入居者様の避難先について把握していただくなどして、情報を共有し、協働できるよう対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関と連携を取り、定期的な検査を行うようにしている。また、月2回の居宅療養管理指導で利用者様の健康管理を行い、体調の変化にすぐに対応できるようにしている。	利用開始時に本人と家族に主治医の希望を確認している。以前からの主治医を選択することも可能としているが、協力医の選択が多い。提携医療機関での定期的な検査や、協力医の月2回の訪問診療にて体調管理を行っている。受診には職員が同行し、結果も家族に詳細に報告している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の意思による健康指導や相談など、利用者様やご家族様が安心できるサービスの提供を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書の作成・提供だけでなく、病院との電話連絡で入院中の状態を把握し、カンファレンスに同席してご家族様との情報の共有を行ったうえで、退院後のケアに向けて支援計画を立てている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療行為が必要になるまで、可能な限り本人様やご家族様の希望に沿った支援ができるよう、その都度意向の把握に努め、重度化した場合は協力医療機関と連携できるよう支援に取り組んでいる。	看取りは実施していない。利用開始時に事業所で行える対応について説明し同意を得ている。利用者の重度化や状態変化にできる限り支援を行えるように主治医との連携を図りながら職員一丸となり取り組んでいる。利用者の状態に合わせ、必要に応じた適切な関係機関に繋げている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ちょっとした気づきをヒヤリハットにあげ、事故報告の事例をまとめて事故に繋がらないよう、職員と調理担当のパート職員で情報共有を行っている。新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた救急蘇生法の講習を受け、半年に一度は必ずAEDと心肺蘇生の講習を受けている。	ちょっとした気づきやヒヤリハットを重要視している。事前の気付きや事故報告書の取りまとめや毎月のミーティングで検討を行い、事故に繋がらないようケアにも反映させている。緊急時の対応も連絡網にて迅速に対応できるよう備えている。半年毎にAEDの心肺蘇生の講習を実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会とは自治会の自主防災会に加わり、連携をはかっている。災害時の避難は年に2回避難訓練を行い、実際に避難する場所への移動訓練や配車表の作成を行っている。また、避難先についてはその都度情報収集を行い、状況に応じて避難先の確保や物資を補給して施設での災害対応に備えるなどしている。	年2回定期的に避難訓練を実施している。訓練では実際に利用者と車両に乗って避難場所まで行き、その係る時間の測定やすぐに誘導ができるよう配車表を作成するなど、実際の有事を想定した内容にて実践している。自治会の自主防災会が行う防災訓練にも参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人権を尊重し、プライバシーを損なわないような声掛けを行っている。また、個人の記録等も他者の目に触れないよう、取り扱いに注意している。	利用者一人ひとりの人格の尊重を意識し、ケアにも尊厳を損なわないよう配慮し取り組んでいる。研修も年間計画にて位置づけ倫理や接遇、プライバシー保護など学びを深めている。記録は今年よりタブレットを導入し、個人情報保護の観点から安全に管理できる環境整備を行っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の身振りやしぐさなどを通して、本人が何をしたいかをくみ取るよう努力している。また、職員の間で利用者様の個々のシグナルについて共通した認識を持つよう心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に応じて趣味の時間を持ったり、必要であれば水分補給や軽食を摂るなど、入居者様のペースに応じた生活をしていただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着の更衣の際、自己決定できない方はスタッフと一緒に服を選び更衣していただいている。また、整髪できない方は職員が手伝うなどしている。更衣時にお気に入りのアクセサリーをつけるなど、おしゃれができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前は配膳を手伝っていただいている。現在、月の半分は管理栄養士が監修している配食サービスを新たに取り入れ、変化にとんだメニューを提供できるよう工夫している。また、従来通り調理担当職員による手作り・作り立ての食事を楽しめるようにしている。	月の半分はシルバー人材センターに調理担当職員を依頼し昼と夕食を手作りにて行い、残りの半分は外部の配食サービスに委託し、できた食材を温め、ご飯と汁物を事業所で作り提供している。手作り時には職員が献立を立てることで利用者の意向を反映しやすく食の楽しみとなっている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分量を記録し、個々の食事量を把握するよう努めている。嚥下不良の方には水分にとろみをつけ、刻み食やミキサー食、お粥を提供するなど工夫している。また、水分量が少ない方には本人が好む飲み物を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実践して、清潔が保てるようにしている。自分で出来ない方は、スタッフの介助により口腔ケアを行っている。義歯を装着している方は、義歯の洗浄も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。夜間にオムツを使用している方も日中はリハビリパンツを使用し、なるべくトイレで排泄できるよう支援を行っている。	日中はトイレに座って排泄することを基本とし、夜間オムツを使用する方でも日中はリハビリパンツで過ごしトイレに座って排泄を行っている。車椅子にて介助が必要な方にも職員二人対応にて座れるようにしている。自然な排泄を意識し利用者の気持ちや尊厳を大切にしたり取り組みを行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品を提供するなどして、なるべく自然に排泄できるよう促している。また、処方された下剤を使用する場合は個々の状況に応じて調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望があった場合、可能な限り対応している。本人の健康状態に応じて、入浴が出来ない時は全身清拭などを行っている。また入浴剤を使用する、利用者様によっては入浴後に化粧水を使用するなどしている。入浴拒否が見られる方には、職員を後退して声掛けを行ったり、入浴時間をずらすなど、気分を変えて入浴していただけるよう対応している。	1日2～3名の入浴として午後から支援している。入浴は身体状態を観察する機会として意識し、個別の関わりでゆっくりコミュニケーションが図れ入浴の楽しさに繋げている。浴槽も位置がずらせることで身体状態にあった形で入れることやミストシャワー浴など環境も整えている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なかなか入眠できない利用者様にはリラックスして入眠できるよう話し相手をつとめるなど、ここの状況に応じて対応を行っている。また、日中も利用者様の体調に応じ、休息を設けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服薬ファイルを作成し、投薬の変更があった場合は必ずスタッフ間で内容を伝達するよう徹底している。服薬の際にはスタッフが付き添い、二重チェックで誤薬防止に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操・風船バレー・カラオケなど個々が楽しめるよう支援を行っている。また配膳・洗濯干し・洗濯たたみ等自分にできることをして、日々の生活を楽しめるようにしている。季節ごとにテーマを決めた壁画を作っていたが、全員が参加して楽しみながら作成している。	年間行事にて豆まきやひな祭り、七夕、クリスマス会などイベントやバラ園や紫陽花を見に行くなど支援している。日頃においてキーボードを引いたり、歌好きの方にはカラオケを楽しんでもらうなど、個人の好きなことができ、片付けや食事準備なども生活の役割として定着している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	密を避け、コロナ対策を行ったうえで外出ができるよう支援している。密になる場所を避けてドライブに出掛け、季節ごとの花や風景を楽しんでいただけるようにしている。	気候の良い日は日常的に事業所裏の川沿いなどに散歩や日向ぼっこに行っている。コロナ禍であり、主だった外出行事は行えていないが、密にならないように配慮し、季節の花を見にドライブや買い物に行ったりしている。以前では毎年の家族会での外食行事を行っていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理を行っているが、初詣の時に財布を持ってお賽銭を使っていたなどの機会を設けている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自ら電話ができるように支援している。年賀状や手紙のやり取りもできるような支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースに医療施設用の空気清浄機を設置している。玄関などに季節の花を飾ったり、ホールに接した厨房で調理を行う事によって料理の様子や匂いを楽しんでいただくなど、五感を刺激する事によって日常生活を楽しめるよう工夫がけている。ホールや廊下の壁面には行事の写真を掲示して、皆様がいつでも見られるようにしている。	リビングは木の設えにて梁があり、大きな窓からは日差しが差し込み明るく温かみのある空間としている。玄関の花瓶には近所から頂いたり職員が持参した花を生けている。対面式のキッチンからは料理の様子が伺え、調理の音や匂いなど生活感を感じることができるよう配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の各所に椅子やソファを設置し、利用者様の気分に合わせてくつろげる場所や談笑用のスペースを提供している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や写真、お気に入りのぬいぐるみを置くなどして、個人の好みに応じて過ごしやすい空間になるよう工夫している。本人が利用しやすい家具の配置を行っている。	全居室窓からは川沿いの桜並木が見え、春の大きな楽しみとして季節を認識し楽しみに眺めることができる。自宅で使い慣れた家具や仏壇など、思いの物の持参がある。写真や手紙を飾り、配置も本人や家族に確認しながら決定し、心地よく過ごしやすい環境となるように整備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にわかりやすいトイレなどの表示を工夫して、自立の為に支援を行っている。また、利用者様の身体機能の状況に応じて、歩行器や車椅子、シルバーカーを使用している。		

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名	グループホームアクア
作成日	令和5年4月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	ヒヤリハットの報告件数が少なく、事故に繋がる問題点を見つけづらい状態である。	ヒヤリハットが発生したら職員間で必ず情報を共有し、周知徹底する。	介護ソフトの機能を利用し、職員全員がヒヤリハットの事例について把握できるようにする。ミーティングの時に施設内で発生したヒヤリハットの事例について職員間で意見交換を行い、問題点の把握と事故の防止に努めるようにする。	一年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。